「災害での体験を今後に生かしたい」

九州北部豪雨災害からの復興

「背を超える高さまで水が来た」と、当時の様子を話す内牧2区の今井区長。

水に浸った跡を見せる今井区長。
河川の氾濫により内牧地区や今町・黒流町・小池地区をはじめ阿蘇市全域で1,087世帯が床上浸水に襲われた。

黒川が氾濫し内牧の住宅地に流れ込む様子。
（法泉橋そばから内牧小学校の方向に撮影）

【9月21日現在の阿蘇市の被害状況】

被害規模	棟　数	世帯数	人　数
全　　壊	60	60	177
大規模半壊	14	14	34
半　　壊 （うち床上浸水 半壊相当数）	1,053 (1,051)	1,115 (1,113)	2,882 (2,875)
床上浸水	36	37	92
床下浸水	387	387	1,116
一部破損	2	2	6

7月12日の豪雨災害発生から2ヶ月半が経過しました。建物や道路等の復旧工事も着々と進み、山田地区の橋梁など一部の復旧に時間を要しますが、交通に不便な箇所はほぼ改善されてきました。

今月号では、地域の区長さんによる「体験談」をもとに、当時を振り返り、今後の防災について考えていきたいと思います。

また、今回大きな支えとなりました災害ボランティアの方々からも感想をいただきました。

「黒川が氾濫。波打つ強い流れで住宅地に流れ込む恐怖」

内牧2区　今井信博区長

雨と雷がひどく眠れないでいた。夜中2時に農業用車両を安全な場所に移動した。（結局これも水没してひっくり返ってしまったのだが・・）。家に帰り次に見回りに出ようとした時はもう水が家まで来ていた。すぐに、ものすごい流れが来始め床上浸水に。小倉などの橋に木々がつまり黒川が氾濫。流れ出した水がうねりながら今町から黒流町、小池、内牧へと押し寄せて来たためであった。

さらに内牧でも黒川が氾濫。そっちからも水が流れ込み出した。黒川はうねり、なんと波打つ高さは川の真ん中付近は堤防より1ｍくらい高くなっていた。見たことのない恐ろしい光景。2階が無いため消防団が救助に来てくれたが流れが強く諦めた。後で流れが落ち着いて助けてもらった。

隣保の人たちも全戸が逃げ遅れ孤立していた。車も全て浸かったまま、皆逃げるに逃げられなかった。内牧で水害を何度も経験するが今回ほどのことは予想できなかった。

高齢者が多いため、今後は早めの避難など状況判断できるよう、必ず届く情報伝達方法を考えたい。今回のような場合、避難の仕方も難しい。避難所も浸かってしまった。課題は多い。

今回、内牧は大多数が床上浸水に遭った。ひどい所では2ｍ超浸水した。しかし後日、ボランティアの方々の手により各家庭が生活できるまでになった。泥だらけになりながら、床下の作業を文句一つ言わず黙々と行われる姿は忘れることはできない。深く感謝している。

「阿蘇谷が遊水池状態。あれだけの水を今後どうはけさせるのか」

今町　大和建一区長

仕事のため、畜舎に寝ていて4時に起きた。すると隣の田んぼが浸水していたのであわてて家に帰った。その時、今町の集落は2軒しか灯りがついてなかった。これはいけないと思い市役所に電話した。「皆寝ているから起こしてくれ」と。自宅からも妻と一軒一軒電話した。電話に出ない家が多く、直接起こしへ行った。周り終えようやく我が家に帰った時は浸水しテレビも冷蔵庫もタンスも全部ひっくり返っていた。

「今後はサイレンを鳴らしてでも皆を起こしてください」と市にお願いしたい。雨音で放送は聞き取れず、夜中なので寝ている人を起こすのに大変苦労した。流れがひどく誰も避難できない状態。2階がない人は流し台の上に逃げていた、それでも腰まで水に浸かったまま耐えておられた。今度の流れは今町川を完全に無視して別の流れが押し寄せてきた。以前も今町川の氾

小倉から撮影された7月12日（上）と8月16日の写真（左上）。田園地帯が海の様だったが、現在は米が実る。

濫はあったがここまで水位が上がったのは初めて。うちの区で浸かってないのは大角田の2軒と後1軒のみだった。自宅2階から見た様子は、集落が流れにのまれ、瓦礫や流木の帯がじゃんじゃん引っ掛かる。その様は本当にひどくショックを受けた。

今回阿蘇谷中が遊水池状態になっていた。災害を避けるには、いうならば阿蘇谷規模の遊水池がいるということになる。谷から早く水を出す工面が一番だと思うが、どれだけの水があの時阿蘇谷にあったか測れるものなら測って今後の対策を考えてほしい。千年に一度の豪雨というが、最近の夕立ひとつとってもどうだろうか。降り方が違う。

また、今後の安全対策には、一人一人の意識も重要。人は家の中に水が入ってきた時、大事なものを濡れないように上げ始める。これをやめて逃げることができるかが問題。いかに正しい行動がとれるかだ。コンバインやトラクターを避難しようとして命を落とそうとした人もいた。水の怖さの認識もいる。うちの集落は農家が多いが、農業用車両がほとんど浸かってしまい、高齢者ばかりでやっとの思いでやっていたところにさらに追い打ちをかけた。今後地区の建て直しが課題である。

水の跡を指す大和区長。2m近く浸水した自宅横の馬屋。

大和区長宅の2階から撮影。上の写真は自宅一階がほぼ水没した様子。下は近所の様子。

「同じ区の方々が犠牲になり残念でたまらない」

福岡　市原鉄朗区長

激しい雨に目覚めた。外を見に出たら、国道57号から集落の道路へどんどん水が入り側溝が溢れ、道路に流れ始めていた。異常を感じたがあまりの雷のひどさに家に帰った。すると突然「ゴォー」というものすごい音がした。すぐ外を見たら前の山が相当高い部分から崩れ落ちて来た音だった。そしてたくさんの流木とともに土砂が裾を広げてこっちへ来た。集落の一番上の家が土砂にのまれた。その次の家も次も。

次はうちへ来ると思った瞬間、東日本大震災の時、津波で家が次から次へとのまれるシーンが浮かんだ。もう終わりかと思った。土砂はそのまま福岡地区に流れ込んだ。妻は見た光景があまりにも恐ろしくそのまま座り込んでしまった。下に降りてみたら土砂は家の窓を破らず胸あたりまでの高さまで来て止まっていた。

上の方の完全に土砂に埋まった家の住人を、家からどうにか出られた人たちが助け始めた。皆、腰や胸まである土砂をかき分けながら必死で仲間を救おうとしていた。子どもがいた。泥だらけだったが元気だったと言う。

しかし、完全に押しつぶされた家がある。しかし全く近寄れない。皆祈る思いで救出を待った。自衛隊などにより懸命の救出活動が行われたが、残念ながら5名が遺体で発見された。本当につらい出来事であった。

亡くなった方々とは、7月8日に地区の清掃活動を